

2000年の新春にカンパイ!!

—西山記念文庫が京都府よりNPO法人として認証—

理事長 広原盛明

新年あけましておめでとうございます。いよいよ21世紀まであと残すところ僅か1年となりました。2000年の年頭にあたり、西山記念文庫は1999年11月29日に京都府より18番目の特定非営利活動法人として認証を受け、12月6日に法人登記を無事完了したことをご報告申し上げます。以下は、12月7日に大学記者クラブ(京大)での記者発表の概要です。

<NPO法人西山記念文庫の特色及び事業計画>

1. わが国最初のすまい・まちづくりに関する

「NPO研究アーカイブス」

西山記念文庫では、現在、戦前・戦中・戦後60年間(1930年～90年代)の西山卯三関連の住宅・建築・都市計画に関する研究資料約10万点を、年代別・テーマ別に整理して公開しています。主な資料は、①著作、論文、講義ノート、調査報告等に関するオリジナル原稿、挿絵、図版、初版本、②戦前から戦後にかけての全国各地の住宅や街並みの写真のネガ・スライド(10万枚程度)とスケッチ2300点、③日記(1927年1月～1994年2月)、フィールドノート、名刺、書簡類(1931年8月～1994年2月)、④同潤会、住宅営団、戦災復興院、住宅公団など戦中戦後期の住宅復興政策資料などです。

これらの資料に基づく事業計画として、

第1は、住宅営団復刻資料(日本、朝鮮、台湾、中国)を中心とする「戦中戦後期住宅復興政策資料集」(全30巻、日本経済評論社、2000年夏から)の刊行が現在鋭意進行中です。

第2は、現在、急速に散逸しつつある個人及び組織所蔵の研究資料等の保存・整理・活用の方途を探るために、東京・大阪で「住宅・建築・都市計画分野における20世紀の知的遺産をいかに継承するか」と題するシンポジウムと企画展示会を開催(2000年5～7月)します。これはいわば、すまい・まちづくり分野におけるわが国最初の「NPO研究アーカイブス(archives:記録保管所)」としての問題提起です。

2. 128人の博士学位取得者を擁した高度で多様なすまい・まちづくり専門家集団

本文庫の個人会員382人のうち、349人(92%)が、研究者・建築士・プランナー・コンサルタントなどのすまい・まちづくりの専門家であり、建築学会225人(59%)、都市計画学会146人(38%)、都市住宅学会147人(39%)の正会員です。所属も大学172人(45%)、民間部門116人(30%)、公共部門53人(14%)等と広く分布しており、博士学位の取得者は、工学博士115人(30%)、学術・法学・経済学・医学博士等13人(3%)、計128人(34%)に達しています。地域的には、近畿地方239人(63%)と関東地方82人(22%)が多く、合わせて321人(84%)と大半を占めます。

このような多様で高度な専門家集団としての特色を生かして、1999年夏に開催した全国の建築・住居・都市計画系大学院生を対象とする「夏の学校」をさらに発展させ、2000年度から各大学・大学院との提携により「すまい・まちづくりインターンシップ事業」(単位授与)を立ち上げる予定です。また、すまい・まちづくりに関する実務家の職能研修事業として「すまい・まちづくりリカレント講座」を開催します。

3. 持続的に発展する「研究ミュージアム」

本文庫が「西山文庫」ではなく「西山記念文庫」である所以は、第1に、全国のすまい・まちづくりに関する研究資料を研究者個人や関連組織から系統的に蒐集し、当該分野の研究資料センターとして広く内外に公開することを目指していること、第2に、本文庫を拠点として、すまい・まちづくりに関する最新情報や先端的研究の交流を行う機会を設け、すまい・まちづくり研究の学術交流拠点(COE)としての発展を目指している点にあります。今後はNPO法人としての特色をいかに発揮して、「持続的に発展する研究ミュージアム」としてのユニークな存在を目指すつもりです。

